

文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」(2006年度~2008年度)選定  
大東文化大学国際関係学部「アジア理解教育の総合的取組」関連企画

# アジア芸能のタベ

アジア芸能の神々が夜の闇に舞い降りる



大東文化大学東松山キャンパス60周年記念講堂

2007年11月23日(金・祝) ▶ 24日(土)



主催 / 大東文化大学国際関係学部 後援 / 東松山市・東松山市国際交流協会



## 歓迎のことば

大東文化大学 学長  
和田 守

ようこそ、「アジア芸能の夕べ」へ

本日、多くのご来場者を迎えて第1回「アジア芸能の夕べ」を開催できますことを、誠にうれしく存じます。お忙しいなかご来場いただきました皆様に、大東文化大学を代表し、歓迎のご挨拶を述べさせていただきます。

「深く地域に根ざし、広くアジアへ、そして全世界へ」。これは、大東文化大学のモットーです。今回の催しは、このモットーのもと、地域の皆様とともにアジア各国の音楽や舞踊に触れ、交流を深めたいと、この東松山の地に設置された国際関係学部を中心に企画いたしました。

ご承知のように、近年、アジア地域と日本との交流は、分野においても、また規模においても、急速に深まりつつあります。例えば、輸出入の貿易総額は、2004年に香港を含む対中国貿易総額が22.2兆円に達し、対米貿易総額20.5兆円を抜いて第1位になりました。対韓国貿易総額は7.2兆円で第3位を占めています。さらにインドやインドネシアなどを含めたアジア地域との貿易総額は全体の50%を超えるに至っています。日本経済はアジア諸国との友好・相互依存関係なくしては、もはや成り立ちません。アジア各国の料理や韓流ドラマなど、私たちの日常生活にも、アジアは親密な存在になりました。

そのなかで、今回の「アジア芸能の夕べ」は、あえてアジアの「伝統」芸能を取り上げています。伝統芸能は、歴史に生まれ、人々の生活に密着しながら保持されてきたものです。それぞれの社会の人々の感じ方や思いがこめられています。そして何よりも、カラフルで生き生きとした楽しい芸能です。政治や経済だけでなく、アジアのそれぞれの地域の人々が大切に守り育ててきた文化に触れること、それはアジアとの交流の原点になるものと考えております。

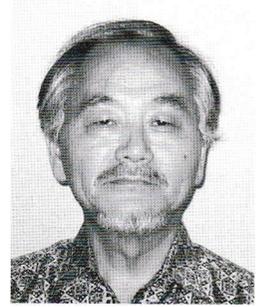
今回の企画は、文部科学省による2006～2008年度の「特色ある大学教育支援プログラム」に選定された「アジア理解教育の総合的取組」の一環として、国際関係学部の教職員や学生が運営しています。国際関係学部では、書物や教室での講義をとおした「座学」だけでなく、一人ひとりがアジアを体験しアジアの人々とともに考える体験型の学習をとおして、実感をともなうアジア理解の深化を目指しています。本日の催しもその一環です。ご一緒に、アジアを体験し、楽しんでいただければ幸いです。

最後になりましたが、素晴らしいアジア芸能を披露していただく出演者はじめ関係各位に心よりお礼を申し上げますとともに、今後のより一層のご活躍を祈念いたしております。

なお、当キャンパスに隣接する埼玉県こども動物自然公園内に大東文化大学ピアトリクス・ポター資料館がございます。映画『ミス・ポター』が上映されている折りでもあり、イギリス湖水地方を舞台にした「ピーターラビットの世界」もご観賞くださいますようお願い申し上げます。

本日は誠にありがとうございました。

# 一期一会の宴



国際関係学部長

押川 典昭

今から25年も前のこと、インドのニューデリーで、ラビ・シャンカルの生演奏をきいたことがあります。言うまでもなく、ラビ・シャンカルはシタールの奏者で、ビートルズのジョージ・ハリスンなどを通してロックやジャズにも影響を与えたインドを代表する音楽家です。シタールというインドの伝統楽器が世界的に知られるようになったのも、彼の活躍によるところがおおきいでしょう。

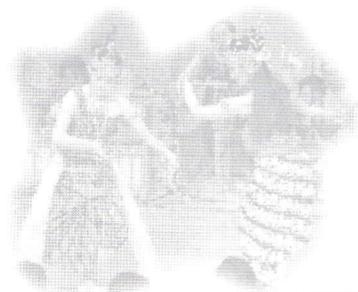
あるホールで開かれたその演奏会で、わたしは、どうしてそのような場所に座ることができたのか、もう覚えていないのですが、一般の客席ではなく、ステージ上の彼の左斜めうしろ、手を伸ばせばその肩に届きそうな場所に、インド人といっしょにあぐらをかいて演奏をききました。正確には、「きいた」というより、「みた」といったほうがよいかもしれません。ラビ・シャンカルは1920年の生まれですから、演奏家として円熟した時期だったのでしょう。はげしく自在な指の動きがうむ即興性に満ちた演奏と会場の熱気に圧倒されながら、わたしは至福の時間を過ごしたものでした。

それから、回数はさほど多くありませんが、インドやインドネシア、ベトナム、イラン、エジプトなどの音楽や舞踊に生で触れる機会がありました。ジャワ島の夜の深い闇とアセチレンガスの淡い炎に包まれながらきいたガムラン音楽とワヤン（影絵劇）。南インドのタミルナドでみた艶やかな踊り。東松山校舎のキャンパスプラザできいたベトナムのトルン（竹の木琴）の優雅な調べ。あるいはまた、渋谷の小さなライブハウスできいた先代高橋竹山の津軽三味線。それぞれの場所の記憶と結びついて、どれも深い感銘を受けたものばかりです。

そうしたアジアの芸能との出会いには、どこか儂く、無常の印象があります。それは体験や記憶というものの本質にかかわることでもあるでしょうが、その場一回かぎりのもの、再現不可能なもの、というアジア芸能の特質からくるような気がします。たとえば、西洋音楽は、五線譜に記された明確な音階があり、その音階をなぞればまったく同じ演奏をくり返すことができる（電子ピアノの自動演奏はその例）。しかしアジアの芸能の多くは、それを演じる個人や集団に属し、同じ曲目や演目でも、演者によってまったく違ったものになるでしょう。口伝とか奥伝といった言い方は、機械的な複製のできない、アジア芸能の技の伝え方をよく示しているように思います。

わたしたちには「一期一会」というすばらしい言葉があります。一生に一度だけ出会うこと、という意味ですが、アジア芸能の特質をよく表わしてもいるでしょう。今回のプログラムにあるインドネシア、韓国、中国、インドの伝統芸能の上演は、この場かぎりのもので、他のどこでも同じものを再現することはできません。その一期一会の宴をじっくり味わっていただければ幸いです。

# Program



2007年11月23日(金)

## ■体験講座「インドネシア、中部ジャワのガムラン音楽体験」

講師 小迫直子、大東文化大学学生・卒業生

時間 1回目 13:00～13:50、2回目 14:00～14:50

## ■公演「アジア芸能の夕べ 第一夜」

開演：18:30

司会 関谷元子（NHKFM「アジアポップスウインド」パーソナリティ）

### 第一部 インドネシア、中部ジャワのガムラン音楽と舞踊

出演 ガムラン演奏：ランバンサリ

- 演目
1. サブ・ジャガ
  2. 仮面舞踊グヌンサリ / 伴奏曲 ボンデッ（舞踊：飯島かほる）
  3. バイト・カンダス～カロンキン
  4. 舞踊 ガンビヨン・パンコル / 伴奏曲 パンコル（舞踊：川島未未）

### 第二部 韓国の伝統舞踊

出演 鄭明子韓国舞踊団

- 演目
1. 天下太平之舞
  2. 教坊舞
  3. 長鼓舞
  4. サルプリ舞
  5. 風物チュム（ひびきII）

☆照明：土屋弘志

音響：新館 貢



2007年11月24日(土)

● **体験講座「インドの古典舞踊バラタナーティヤムと古典音楽体験」**

講師 野火杏子、大東文化大学学生・卒業生

時間 1回目 13:00～13:50、2回目 14:00～14:50

● **公演「アジア芸能の夕べ 第二夜」**

開演: 18:30

司会 関谷元子 (NHKFM 「アジアポップスウインド」パーソナリティ)

**第一部 中国の京劇**

出演 張紹成京劇団

演目 京劇「三岔口」

**第二部 南インドの古典舞踊バラタナーティヤム**

出演 コンテンポラリー・ナティヤム・カンパニー

- 演目
1. プシュパーンジャリ
  2. ジャティスワラム
  3. アシュタパディ
  4. ティッターナー

☆照明: 土屋弘志

音響: 新館 貢

# インドネシア中部ジャワのガムランと舞踊

## ■ 出演者紹介

### ▼演奏

ガムラングループ・ランバンサリ／  
Gamelan Group Lambangsari

インドネシア中部ジャワのガムランを演奏するグループ。1985年結成以来、自主公演の他、各種イベントへの参加、初級講座やワークショップの開催、学校の芸術鑑賞教室等、幅広い活動を行っている。2002年インドネシアの人気女形舞踊家ティティ・ニニ・トウォ氏との共演により、ランバンサリ結成20周年特別記念公演「青銅音楽VI」公演を開催。同公演をライブ収録したDVD「万華鏡」



(JMKV-1002)をおらいムービーズより発売。2004年テレビ朝日「タモリ倶楽部」「題名のない音楽会21」、2006年日本テレビ「ぶらり途中下車の旅」に出演。同年ケンタッキーフライドチキンCM音楽担当。1999年よりランバンサリ事業部「多聞天」を開設し、ランバンサリ・スタジオにてパティック講座をはじめとするアジア関連講座、コンサート等を主催している。

ガムラン演奏：荒井桂、上島卓司、河内登、小迫直子、櫻井陽、沢井佳、島根尚子、白井真由美、鈴木路子、西村はる美、二藤宏美、樋口文子、村上圭子、森重行敏、小谷竜一、スミヤント  
<http://www.lambang Sari.com>

### ▼舞踊

飯島かほる／Kaoru Iijima

ハワイ大学音楽学部民族音楽科卒業。在学中よりジャワガムランと舞踊をH.スシロ(Susilo)氏に学ぶ。その後ジャワ舞踊の大家S.ンガリマン(Ngaliman)氏に師事し、ハワイとインドネシアを行き来しながら、ガムラン、舞踊の学習と公演活動続ける。1993～96年インドネシア国費留学生としてジャワに滞在し研鑽を積む。1998年ジャワ古典舞踊グループ「サンガール・パムンカス」を設立し、後進の指導や公演活動を通してジャワの文化を広める活動を行っている。ランバンサリとの共演も多数。

[http://www.geocities.jp/sanggar\\_pamungkas/index.html](http://www.geocities.jp/sanggar_pamungkas/index.html)



川島未乗／Miray Kawashima

共立女子大学文芸学部芸術学専攻劇芸術コース卒業。1998年よりジャワ舞踊を飯島かほる氏のもとで学ぶ。2001～04年STSI(現ISIインドネシア国立芸術大学)スラカルタ校舞踊科に留学。スラカルタ様式の優形舞踊(アルス)をスプリヤディ(Supriyadi)氏に、マンクヌガラン王宮の舞踊をウミヤティ(Umiyati)氏に師事する一方、東ジャワやバニユマス地方に伝わる舞踊「レンゲル」も学ぶ。2006年舞踊グループ「デワンダル(Dewandaru)」を結成し、日本とインドネシアの文化交流に努める。「ランバンサリ」のメンバーとしても活動中。

<http://blogs.yahoo.co.jp/dewandaru2006>



# 解説 インドネシア中部ジャワのガムランと舞踊

## 演目

### 1. サブ・ジャガ *Ldr. Sapu jagad pelog barang*

インドネシア各地に古くから伝わる、青銅製の打楽器を中心とした伝統的な合奏音楽ガムラン、中でもジャワ島中部は、大規模で優美なガムラン音楽を育んだ地として知られています。長い歴史のある、この中部ジャワスタイルのガムランの幅広いレパートリーの中でも、青銅の打楽器群が輝かしく華やかに響くグンディン・ボナンと呼ばれる器楽曲から、第1曲は「サブ・ジャガ」です。タイトルの意味は「世界を清める」。混迷を続ける現代世界の平和を祈って演奏致します。

### 2. 仮面舞踊グヌンサリ *Beksan Gunungsari/*

伴奏曲 *ボンデツ Gd. Baondhet pelog nem* (舞踊：飯島かほる)

インドネシアには仮面を使った芸能が数多くありますが、このような芸能がやがて中部ジャワの王宮に取り入れられ、洗練されて仮面舞踊というジャンルに発展しました。この仮面舞踊の演目の中から、今日は「グヌンサリ」という作品を上演致します。

グヌンサリとは、中世ジャワ東部に栄えた、ヒンドゥー教を奉ずるマジャパヒト王国の時代に書かれた、王族たちの恋と戦いの歴史を描いた「パンジ物語」に登場する王子の名前です。この踊りでは、クディリ国の王子グヌンサリがジュンゴロ国の姫君ラトノ・デヴィ・ラギルクニンに恋焦がれる様子が描かれています。

### 3. バイト・カンダス *Lcr. Baito Kandas ~ カロンキン Ldr. Kalongking pelog nem*

影絵芝居の中でよく使われる曲から2曲。まず「浅瀬に乗り上げた舟」という意味の「バイト・カンダス」という曲が演奏され、続いて「カロンキン」という曲に移ります。カロンキンとは、インドネシアに生息する、果物を餌とする大コウモリのこと、その大コウモリのことを曲中で歌っています。繰り返し3回歌いますが、1回目は原語のジャワ語で、2回目と3回目は日本語で歌いますので、歌詞にも御注目下さい。その後、再びバイト・カンダスが演奏され曲が終わります。

### 4. 舞踊 ガンビヨン・パンコル *Gambyong Pangkur/*

伴奏曲 *パンコル Ldr. Pangkur pelog barang* (舞踊：川島未未)

ガンビヨンは元来、ジャワ島の農村部での豊穰祈願の儀礼に起源を持つといわれている踊りで、後に宮廷舞踊のレパートリーに取り入れられました。現在では結婚式などのお祝い事の席や、新しい建物のお披露目の儀礼など、おめでたい場面でよく踊られています。伴奏曲のパンコルは、ジャワの人々に大変人気のある、非常にポピュラーな曲で、この太鼓のリズムに呼応して、女性の美しい仕草を様式化した踊りの動作が、次々と表現されていきます。

# 韓国伝統舞踊

## ■ 出演者紹介

### ▼ 鄭明子韓国芸術研究院

鄭明子韓国舞踊芸術院は、韓国と日本の深い絆を背景に、両国の友好・交流推進に寄与することを願って、東京とソウルに設立されました。古典および民族舞踊の正統な伝承を受け継ぐと同時に、これをもとにした現代に通じる創作舞踊に至るまで、総合的な幅広い後進の育成を行い、韓国舞踊の継承と発展に努めています。

<http://j-myeongja.com>

### ▼ 鄭明子プロフィール



ソウルに生まれ、6才から踊りを始める。伝統舞踊や音楽の人間文化財、杖鼓(チャンゴ)の名人等多数の先生に師事する。毎年リサイタルを開催する他、各地の音楽祭、映画、演劇、テレビ等への出演や講師としての指導など多彩な活動を行い、その活躍は日本・韓国にとどまらず海外にまで及んでいる。



2001年 第3回、韓国ジャパン伝統歌舞樂全国祭典で、総合大賞大統領賞受賞

1995年 第3回、光州国樂祭典全国大会総合優秀賞、国務総理賞受賞

1995年 祖国を輝かせた海外同胞賞受賞

韓国慶南(キョンナム)無形文化財 第21号教坊クツゴリ履修者

重要無形文化財第73号駕山五廣大伝修者

現在、(社団法人)韓国女性芸術総連合会日本支部長、在日韓国人文化芸術協会副会長

### ▼ 出演

邊錦玉 趙歌織 金恵英 趙成實 崖眞榮 李洋子 金裕美 金子幸代



邊錦玉



趙歌織



金恵英



趙成實



崖眞榮



李洋子



金裕美



金子幸代

## 解説 韓国伝統舞踊

### 韓国の伝統舞踊とは

韓国の舞踊は、古代の信仰から発展し、自然に生活のなかに定着していったもので、宮廷の祭礼行事や仏教儀礼に取り入れられながら、発展していきました。伝統舞踊の代表的な演目は、大きく分けると、宮廷で伝承されてきた舞踊、妓生（樂舞を專業とする女性たち）によって伝承されてきた舞踊、仏教の僧によって伝承されてきた舞踊、巫俗儀礼で巫女たちが伝承してきた舞踊、農民によって伝承されてきた舞踊があります。宮廷舞踊や仏教の僧舞などでは、抑制された曲線的な動きからかもし出される内面の美が特徴的です。一方、農民によって伝承されてきた舞踊は、躍動感にあふれています。また、杖鼓（チャング）、鼓（ブク）、小鼓（ジンセ、ソゴ）をはじめとする様々な打楽器を打ち鳴らしながら踊るスタイルは、独特のリズム感と迫力があります。

### 演目解説

#### 1. 天下太平之舞

花冠舞衣裳の長い袖が空中に調和する美しさとも、太平舞の優雅な足さばきを鄭明子が再構成、振り付けした作品です。豊年と国の太平盛大を祈る華やかな踊りです。

#### 2. 教坊舞

韓国伝統文化形成発展に大きな役割を果たしたものの一つに、妓生の存在があります。彼女たちは詩歌や舞踊、伽倻琴（カヤグム）など諸芸に精進し、気高い心で貞淑な生活を送っていました。妓生たちの生活していた部屋を、教坊と呼び、そこで踊られた踊りを教坊舞といいます。やさしく儂げに見えながらも気高さを内に秘めた踊りです。

#### 3. 長鼓舞

韓国庶民の胸に潜在する恨、興、魂のイメージを多様なリズムと独特な足の運びで複合的に表現した鄭明子の創作作品。漢民族の内面を流れる気、粋、神妙を女性の身振りに纏めた踊りです。

#### 4. サルプリ舞

韓国重要無形文化財第97号に指定された踊りです。南道地方の巫俗から派生したもので、「サルプリ」とは厄を除けるという意味です。巫女舞が後に韓国舞踊の基本である動中静を備えて、神秘的な芸術に昇華したものです。

#### 5. 風物チュム（ひびきII）

韓国伝統楽器を工夫し、昔から伝わる様々なリズムを今風に取り入れ、「情」、「動」を組み合わせて躍動的な“朝の国”を表現した鄭明子の創作作品です。

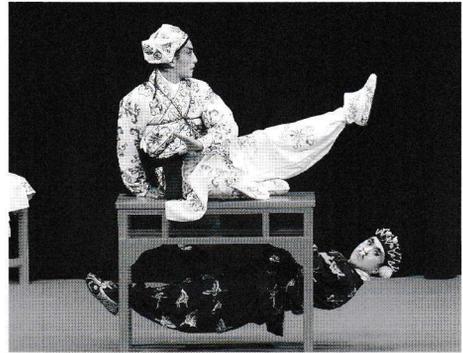
# 京劇

## ■ 出演者紹介

### ▼ 張紹成京劇団

張紹成京劇団は、中国京劇を中心に、中国伝統音楽、雑伎など、エンターテインメント性の高い中国文化芸術を総合的にプロデュースしています。日中両国で活躍する一流の俳優や芸術家の支援を受け、満足のいく質の高いレベルでのプログラムを用意し、子どもから大人まで幅広く楽しんで頂き、かつ文化芸術活動を通じて、益々、日中両国の文化交流と友好につながればと十数年に渡り日本各地で公演活動をしています。

<http://www.kyogeki.info>



### ▼ 俳優プロフィール



張 紹成

中国戯曲学院演劇科卒業。国立中国京劇院に入団、主役を務める。中国で人間国宝と称される王金璐氏の弟子である。二枚目俳優でありながら女形も演じられる俳優である。文武両方に優れる役者として希少であり「百年に一人の逸材」と絶賛される。1986年来日公演参加1989年市川猿之助プロデュース「リ्यूオー」に出演。京劇界のトップスターとして中国の内外で認められている。1990年来日、京劇と中国文化の普及に努める。2005年伝統京劇に新しいアレンジを取り入れた京劇エンターテインメント「悟空」を発表、京劇界に新風を吹き込んでいる。



殷 秋瑞

中国戯曲学院卒業、中国京劇院入団、隈取役専門として数多くの名優との競演経験有り1990年来日。日本語で霸王を演じる唯一の俳優であり、幅広いファンを持つ。非常勤講師として桜美林大学文学部総合文化学群で日本の学生に京劇の指導をしている。



陳 浩

大連京劇学校京劇課卒業。卒業後大連京劇団に入団。立ち回り中心の武生が専門。1998年大連京劇団海外公演のメンバーとして来日公演に参加。2000年来日京劇活動を続ける。



馬 征宏

山東省戯曲学院卒業。山東省京劇院に入団。専門は立ち回りを得意とする道化役。2003年来日後京劇活動の他テレビ、映画などにも参加。



甘 建民

1978年9月一位の成績で安徽師範大学音楽部に入学、二胡専攻。1990年来日、東京学芸大学音楽科作曲の研究生として2年間留学。日本二胡振興会理事、日本に二胡を普及するため二胡学院を設立し、各地での指導にも力を注いでいる。

# 解説 京劇

## 京劇とは

京劇は200年以上の歴史を持つ中国を代表する総合的な舞台芸術です。京劇は大まかに言えば唄と踊りの形で物語を表現します。唄とは純粹な歌ではなく台詞も含み、踊りは立ち回りも含みます。それらは極度に様式化された特徴が目立つものです。良い京劇役者のことを「文武双全」(文武ともによくできる)と言います。文劇をやらせればよく唄い、武劇をやらせればよく立ち回りを行うのです。京劇の舞台はほとんど舞台装置を使いませんので、役者が登場しないと観客は何も分かりません。役者の唄や台詞を通して時間、場所などがわかるのです。自由自在に舞台を使うことも京劇の特徴と言えます。

## 役柄

役柄は生(シヨン)、旦(ダン)、浄(ジン)、互(チョウ)の4つに大きく分けられます。

生(シヨン): 男性の立役で、老生(ラオシヨン)は長いひげを着ける中高年の男性役、小生(シャオシヨン)は若い男性役、武生(ウーシヨン)は立ち回りの男性役になっています。

旦(ダン): もとは、女形でしたが、現代では女性が演じるようになってきました。青衣(チンイー)は貞淑な女性役、花旦(ホウダン)は、おきょうな娘役、武旦(ウーダン)は立ち回りの女性役となっています。

浄(ジン): 悪人とは限らず、エネルギーの強い役となっています。

丑(チョウ): 道化役、または、ずるがしこい卑劣な役でもあります。

## 衣装

京劇の舞台衣装全般(服、被り物、靴)は中国の封建社会をベースにして、人物の身分、地位、年齢、などの特徴を表しています。色彩は、黄、赤、緑、白、黒の「上五色(正五色)」そして、紫、青、ピンク、薄緑、茶の「下五色(副色)」の十色が使われており、人物の身分、地位、年齢などに明確に表され、また、人物の性格を際立たせています。布地の刺繍によっても人物の身分や地位を表しています。

## 化粧

生(シヨン): 文人役は、眉間を半円に描き、武将役は眉間を矢じり形に描きます。ベースはオレンジに近い肌色、目元と眉間をオレンジ系にし、老け役は顔色も薄く化粧します。

旦(ダン): 額、鼻筋、あごのTゾーンは真っ白にし、ベースはピンク、目元は赤系に化粧します。若者や花旦は濃い目の赤にします。

浄(ジン): 原色でケバケバシイ色に顔全体を化粧します。色にはそれぞれ意味があり、赤は「忠義」、黒は「実直」、青は「勇猛」、緑は「義侠」、黄は「乱暴」、白は「腹黒」、金・銀は「神仙」を表します。

丑(チョウ): 顔全体より小さく鼻を中心に白く化粧します。

## 楽器

楽器は、打楽器、弦楽器、管楽器からなっています。打楽器のメインは「鼓板(ツハン)」で、鼓師は指揮者であり、音楽だけではなく音によって芝居で大切な「間(マ)」とリズムを作る重要な役割も受け持っています。弦楽器のメインは「京胡」となっています。

## 演目 京劇「三岔口」あらすじ

將軍 焦贛は、冤罪で鳥流しの刑にあいます。その焦贛を密かに護衛して主人公の任堂恵は一軒の宿屋にたどり着きます。宿の主人劉利華は任堂恵のことを刺客だと勘違いしたため二人は真っ暗になった部屋の中で大立ち回りを繰り広げます。最後にはお互いが味方同士であることがわかり、ハッピーエンドとなります。

# インド古典舞踊バラタナーティヤム

## ■出演者紹介

### ▼コンテンポラリー・ナティヤム・カンパニー (CNC)

CNCは、舞踊家の野火杏子によって1996年に創設された、新宿歌舞伎町を本拠地とする、南インド古典舞踊バラタナーティヤムとインド映画ミュージカルダンス及びインドディスコダンス=バングラの教室と舞踊団。本校の他に、カルチャーセンター、西葛西、新御徒町、大島、東大島、練馬、用賀などで教室を開催し、グローバル・インド・インターナショナル・スクールの幼稚園、小学校の課外授業も担当している。年2回の発表会のほか、「マサラナイト」(インドディスコ)などを主催し、各種イベント参加、



テレビ・雑誌・新聞等マスコミでも度々とりあげられている。約100名の生徒の半数は在日インド人子女で占められ、恒例行事には在日インド人が多数参加している。本年は「日印友好年」にあたり、例年に増して数多くのインド関連行事が催された。本年最後の行事である大発表会は12月15日土曜日、新宿区神楽坂の牛込筆筒区民ホールにて行われる。

<http://www.cncdance.com>

### ▼CNCの活動

古典舞踊科団員が師事するウマー・ラーオ氏は、南インド、カルナータカ州マイソールで「ラリタ・カラー・アカデミー」を主宰する舞踊家で、バラタナーティヤム最大の流派カラークシェートラ流の創始者ルクミニ・デーヴィに師事、チェンナイの芸術学校カラークシェートラで20年以上に渡って教鞭を取り、世界各国で公演を行う。CNC古典舞踊科は「ラリタ・カラー・アカデミー」の東京分校にあたり、これまでに2回のアランゲトラム(プロデビュー公演)を行い、8人のインド舞踊家を輩出。また、カルナータカ州で毎年行われる認定試験を受験できるコースも置かれている。ポップダンス科では、インド映画のダンスをステージ用にアレンジしている。CNCでは、ヒンディー語映画を中心にタミル語、テルグ語のヒット作品からも選曲している。同科はインドディスコダンス=バングラも取り上げている。バングラとは、北インド、パンジャブ地方の民俗舞踊がディスコ調にアレンジされたもので、世界中で親しまれている。CNCはバングラダンスのディスコを開催している。



野火杏子

### ▼出演

舞踊：野火杏子(コンテンポラリー・ナティヤム・カンパニー代表)

井上佐知子 村越文香 吉沢智子 高橋佳子 鈴木晶子 中川宗樹



井上佐知子



村越文香



吉沢智子



高橋佳子



鈴木晶子



中川宗樹

伴奏：井上貴子(声楽・ナトゥヴァンガム)、荒井俊也(ムリダンガム)

竹原幸一(モールシン)、新井剛(タンブーラ)

## バラタナーティヤムとは

南インドのタミル地方を中心に発展した古典舞踊バラタナーティヤムは、かつてはヒンドゥー教寺院の巫女が神々に捧げるために踊っていたと言われますが、後に宮廷舞踊として大きく発展しました。イギリス植民地時代には消滅の危機にさらされましたが、舞踊家のルクミニ・デーヴィらによる復興運動を経て舞台芸術として再生されました。

インドの古典舞踊は、ヌリッタ（ステップなどの身体運動）、ヌリティヤ（マイム）、ナーティヤ（演劇的な部分）という3つの部分から構成されています。バラタナーティヤムのヌリッタは、アダヴと呼ばれる50種類近い型を組み合わせ、3段階のスピードで踊られます。動きに意味はなく、複雑なステップと型の美しさを見せていきます。アダヴは、アラマンディという中腰の姿勢から、裸足で床を強く踏む動きが中心で、ステップを強調するために両足に多数の鈴をつけます。ヌリティヤ（またはアビナヤ）は、ハスタと呼ばれる手のジェスチャーや、ナヴァラサと呼ばれる9種の感情表現の方法を駆使し、ヒンドゥー教の神話を表現します。ナーティヤは演劇的な要素のことで、複数の舞踊家が異なる役柄を演じる舞踊劇を表します。

バラタナーティヤムのリサイタルでは、ヌリッタのみ、アビナヤのみ、ヌリッタとアビナヤの組み合わせなど、異なるスタイルの複数の演目が配置されます。ヌリッタのみの演目には、アラールリップやジャティスワラムなどがあり、アビナヤのみの演目には、アシュタパディ、パダム、ジャーヴァリなどがあります。

伴奏にはナトゥヴァンガムと呼ばれる小さなシンバルが用いられますが、これが舞台全体を指揮する役割を果たし、多くの場合舞踊の師匠によって担われます。これにムリダンガム（両面太鼓）が加わってリズムが強調されます。

## 演目解説

## 1. プシュパーンジャリPushpanjali (ラーガRaga: ナータイNattai、ターラTala: アーディAdi)

リサイタルのはじめに、ヒンドゥー教の神々に花を捧げ、成功を祈ります。後半にはアラールリップと呼ばれるアダヴの組み合わせによるウォーミングアップ的な演目が加えられています。なお、ラーガは旋律の、ターラはリズムの規則を表わします。

## 2. ジャティスワラムJatisvaram

(ラーガマーリカー Ragamalika、ターラTala: ミシュラ・チャプMisra Chapu)

ジャティとは、アダヴを組み合わせた一連の振りのことで、スワラムはインド音楽の音階（サ、リ、ガ、マ、パ、ダ、ニ）を指します。つまり、スワラムに合わせてジャティを踊るヌリッタの演目です。

## 3. アシュタパディAstapadi (ラーガマーリカー Ragamalika、ターラTala: アーディAdi)

ヒンドゥー教の神々の中で一番人気の高いクリシュナ神の物語です。クリシュナは幼い頃から牛飼いだちの中で育ちました。成長した美しいクリシュナ神は、多くの牛飼いの女性達の心を魅了します。そのなかで、ラーダーという名の女性はクリシュナを独占したいと願いますが、クリシュナは多くの女性と恋をしています。そうしたクリシュナの姿に彼女は衝撃を受け、怒り、嫉妬し、悲しみにくれるのでした。

## 4. ティッターナー Tillana (ラーガRaga: ナタバイラヴィ Natabhairavi、ターラTala: アーディAdi)

リサイタルの最後は、複雑なステップ構成で華やかにリズムカルに踊るヌリッタの演目です。内容は、カラークシェートラ流の創始者ルクミニ・デーヴィを讃えるものです。

# アジアの身体とパフォーマンス

—アジアの芸能を楽しむ—

国際関係学部教授 井上貴子

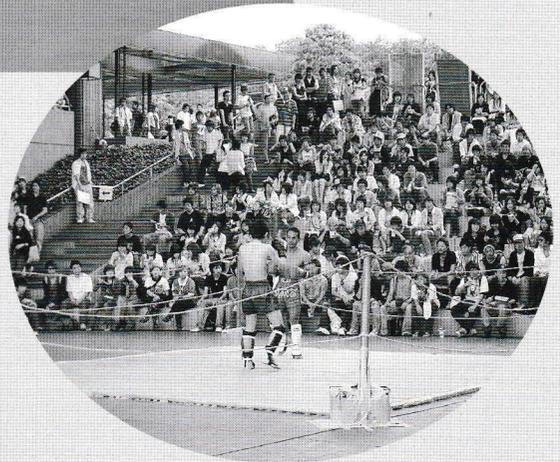
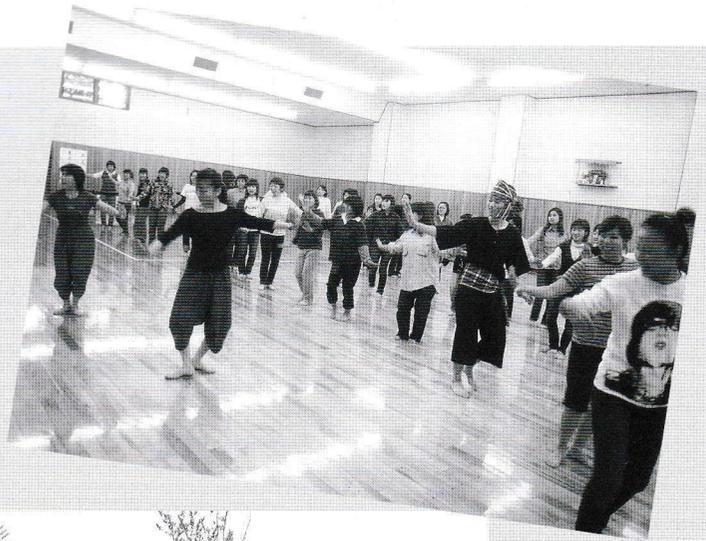
アジアは実に多様な顔をもっている。地理的にも非常に広大で、氷河を有するヒマラヤ山脈、灼熱の砂漠地帯、うっそうとしたジャングルも存在する。地理的な多様性に応じてそこに住む人々の生活習慣、信仰や考え方、民族も多様である。イスラーム、仏教、キリスト教といった世界宗教以外にもインドのヒンドゥー教のように数億の人口をもつ宗教が存在する。中国や韓国には日本人とよく似た顔つきの人々が多いのに、インド以西は顔つきも体型も全く異なる人々ばかりである。多くの日本人は、欧米を旅するよりもアジアを旅する方が、数倍ショックを受けることが多い。アジアと日本は近くて遠いと感じられるのは、そのような多様性に対する私たちの認識が追いついていないせいなのかもしれない。

このような圧倒的な多様性を前にしてもなお、「アジア」と一言でくくれるような要素は存在するのだろうか。全く学術的ではないが、私自身がアジア各地の芸能を体験していくなかで、ヨーロッパの伝統的な古典舞踊にあたる「バレエ」や、ジャズダンスをはじめとする「バレエ」から派生した舞踊の身体とは異なる、「アジア的な身体」のようなものが存在するのではないかと感じるようになってきた。バレエは天に向かって伸びるような動きが圧倒的に多いが、アジアの舞踊の身体は大地に根ざした動きが多いように感じる。バレエは足の裏全体をつけることを好まないが、アジアの舞踊では足の裏全体で大地を慈しむように動く。実際、プロの舞踊家に尋ねてみると、バレエの身体訓練では内側の筋肉が鍛えられ、アジアの舞踊の多くでは外側の筋肉が鍛えられるという。

また、アジアの伝統芸能には宗教や儀礼に根ざしたものが多い。たとえば、韓国の古典舞踊の代表的な演目には、仏教の僧侶たちによる僧舞や巫女儀礼に伴うサルプリ舞がある。インドの古典舞踊バラタナーティヤムのテーマはほとんどヒンドゥー教の神話に由来する内容をもっている。また、寺院儀礼や祭礼に由来する芸能はしばしば夜を徹して行われる。ほんやりとした明かりのなかで見る芸能は、神の降臨を思わせる神秘的な美しさをもっている。このような芸能は、特別な場所で特別なときに上演され続けてきたのだが、今日ではステージ・パフォーマンスとして気軽に接することが可能になった。

さて、本学国際関係学部では、これまで数年にわたって「比較文化特殊講義」という科目で「アジアの身体とパフォーマンス」と題し、韓国、中国、タイ、インドネシア、インド、アラブなどアジア各地の舞踊の専門家を招いて、実際に体を動かしながら、アジアの身体とパフォーマンスの特性について考えるという体験型の講座を開講してきた。「アジア芸能の夕べ」は、この講座にお招きした、国内外で活躍中の専門家の先生方による、本格的な芸能公演である。今回は、そのなかから、初日に韓国舞踊とインドネシア中部ジャワのガムラン音楽と舞踊、二日目に中国の京劇と南インドの古典舞踊バラタナーティヤムの公演が実現することになった。

これらの芸能を楽しむコツのようなものはあるのだろうか。異文化コミュニケーションにおいて、お互いに言葉を交わし合って対話することはとても重要である。しかし、多様なアジアの言語を前にすると、それを習得するまでの道のりの長さ気持がなえてしまうこともあるだろう。しかし、本来、人間は言葉だけでコミュニケーションしてきたわけではない。「ボディランゲージ」とよく言うが、その通り、言葉がわからなくても、相手が喜んでいるのか、悲しんでいるのか、怒っているのか、身体的な表現をみればよくわかるものである。コンピュータやケータイのような相手の見えないコミュニケーション手段のみが異常に発達した現代社会で、「パフォーマンス」という視点は、非言語的コミュニケーションの重要性を思い起こさせてくれる。芸能は異文化コミュニケーションへの第一歩であり、究極の形でもある。この機会に、気軽に異文化体験をしていただければと思う。





**大東文化大学**  
DAITO BUNKA UNIVERSITY

国際関係学部

〒355-8501 埼玉県東松山市岩殿560

TEL0493-31-1513

FAX0493-31-1512

HPアドレス <http://www.daito.ac.jp/>